

鎌倉の歴史的遺産の 価値について

放送大学教授

五味文彦さん

「鎌倉世界遺産登録推進協議会」設立総会において、鎌倉市歴史遺産検討委員会副委員長である放送大学教授 五味文彦さんによる記念講演が行なわれました。

『鎌倉の歴史的遺産の価値について』というテーマで三つの視点からお話が進められました。(以下要旨)

《歴史遺産に関する研究・評価》

鎌倉幕府の研究、市史の編纂、中世都市としての鎌倉の研究と考古学による発掘調査及び研究が基本となる。1992年に日本政府により世界遺産の暫定リストへ登録されたが、当初は独自性をだすため「中世の城塞都市・鎌倉」として検討された。

その後2001年に『「古都鎌倉」をとりまく山稜部の調査』(県教育委員会、市教育委員会、(財)かながわ考古学財団編)並びに『切通周辺詳細分布調査報告書』(市教育委員会編)により重要な成果が報告された。その結果、鎌倉の防御施設とされたものに対して、しだいに疑問点がでてきた。鎌倉を城塞都市として評価するのが難しくなってきたが、コンセプトとしても鎌倉の文化、特色を捉えるのに適しているのかどうかという大きな問題も浮上してきた。

そうしたことから見直しを図る必要がでてきて、鎌倉の文化を系統的に捉え直し、景観との関係で位置づける作業を始めた。

世界遺産登録の対象になるのは遺跡や寺社等のモニュメントである。そこで自然風土や景観の観点から鎌倉の文化を眺めた七つの視点で分類してみた。

- ① **〔山の文化を背景とした坂の文化〕** 鎌倉は三方を山で囲まれており、軍事・交通上の機能のために切通が造られた。それらは境界をなして鎌倉の都市構造に大きな特色を与え、商業施設が生まれたりもした。
- ② **〔谷の文化〕** 鎌倉の都市発展は谷戸の開発と共にある。まず東国武士の谷に根拠地を求める住み方が持ち込まれ、13世紀後半からは大陸からの技術



と、禅宗の思想から大規模な開発がなされて、諸寺院や武家の館、やぐらと呼ばれる横穴式の墳墓堂が造られた。

- ③ **〔丘の文化〕** 鶴岡八幡宮、荏柄天神社等にみられる丘陵部に鎮座する社寺を中心とした文化である。
- ④ **〔平地の文化〕** 鎌倉を都市として成長させた文化である。南北の若宮大路、東西の六浦道が整えられ、町として整備された。
- ⑤ **〔浜の文化〕** 鎌倉に大きな特徴を刻み込んだ文化で、特に葬送の場として穢れを浄化する機能を帯びていた。
- ⑥ **〔海の文化〕** 今も港湾施設である和賀江島が残っている。各地からの年貢、京からの文物、大陸からの物資及び情報や観念が入ってきた。
- ⑦ **〔周辺の地の文化〕** 鎌倉の文化風土を理解するうえで欠かせることができない。鎌倉のもう一つの港湾であり北条一門の金沢氏の拠点である六浦、聖地である江ノ島、一遍が布教活動をした片瀬浜、鎌倉と各地を結ぶ鎌倉道(街道)などである。

これらが有機的に結びつき、一つの宇宙を形成しているところに鎌倉の文化風土の大きな特徴がある。そのため鎌倉の世界遺産は文化全体を通して登録する必要がある。そこで改めて鎌倉の歴史の変遷を考えるべきである。

すなわち鎌倉は武士自らの政権で自然に即した都市構造を持ち、仏教等の信仰を育みながら武家政権の基礎を築いた都市である。それらがあってその後の武家の古都として各時代の支配者に保護され続けたのである。これらの点を踏まえて「武家の古都・鎌倉」というコンセプトが採用されるに至った。鎌倉の遺産の評価としては切通等の景観、寺社等の文化財、遺跡における遺物と遺構が挙げられる。市民に広く知ってもらうために昨年は「永福寺」、今年は